

システム管理者の眠れない夜 筆者の本音

柳原秀基@NT-Committee2

<http://www.hidebohz.com/>
hidebohz@pop01.odn.ne.jp

アジェンダ

- 自己紹介
- 1994年から現在まで
- 執筆を通じてお伝えしたいこと
- 人とITのかかわりを、どのように捉えるか

自己紹介

- (株)クボタ勤務
 - 農業機械・建設機械・上下水パイプ・ポンプ・バルブ 他
 - 部門システム統括 (約600ユーザ)
- 企画部 情報Grリーダー
 - SE:3名
 - 企画・管理・庶務 :3名
- Windows NTを中心にシステム開発、運用(1993 ~)
 - メールサーバはunix ->その後 Notes(pop/smtp)
 - SQL Server, Oracle, IIS
 - VB, Access, ASP

最初は1人から

- 1992年 :情報化プロジェクトの立ち上げ準備 (1人)
- 1993年 :プロジェクトの立ち上げ (4人)
 - 基幹業務の一部をWindowsに
 - Windows NT3.1AS + SQL Server + Windows3.1
 - 1996年までシステム拡大 (開発はVB)
- 1995年 ~
 - 全員のインフラストラクチャ化
 - あいまいな24時間運用体制へ
 - 制度、ポリシー面からの体制整備
 - Windows95の悪夢

また一人ぼっちに

- 1997年 :システムの安定化と同時に1人に減員
 - 複数NTドメインをシングルドメイン化
 - 出張を繰り返す日々
- 1999年 :西暦2000年問題への対応
 - Y2K対応を理由に2名増員
 - クライアントの環境統一
 - 技術面の問題は部下に任せ、社内交渉、対外交渉に専念

2000年～2001年

- 安定した業務アプリケーションの実行基盤
 - Windows NT4.0 + MS-Office97SR2
 - IEAKによるIEの配布
 - Drive Image Proによる短時間クローン作成
 - Acrobat Reader/VNC/Lhaca/AL-Mail32
- Y2Kによってストップしていたプロジェクトが一気に再開

2001年～

- 経営革新とIT
 - C D (情報統括責任者) の設置
 - 合理化ツールからの脱却
 - 業務改革とリンクしたテーマ選定
 - 受注方法、物流、現場の改革
 - 既存業務の削除、代用、新サービス提供
 - ワークフローと電子承認
 - 短期開発

既存組織の壁は増加

- 開発期間6ヶ月のテーマ
 - 審議へ加わりたい組織が急増
 - 1部署 説明 審議 質問 回答 (2~3週間)
 - 予算審議に半年以上、印鑑が20個以上
 - みんな、ITに関わりたいのね？
- 審議のスピードアップ
 - 一括説明・一括審議・一括質問・一括回答
 - 審議部門間の力関係がまる見えに

タテ社会に浸透するIT

- 意思決定の迅速化？
 - 組織統合、管理職のリストラによって、意思決定は早くなっているはずだが
 - 業務改革を伴うITは、あらゆる部署に関係する
 - 審議ルートが増加、順番の複雑化
- 耳学問のIT
 - CRM/SCM/ERPなどの単語の独走
 - 「業務改革ツール」という「思想」と「現実」の差
 - メーカーのプレゼンテーションに毒される中高年

世代毎に異なるITとの接し方

- 団塊の世代
 - 1949年生まれ中心
 - 戦前～戦中の貧しい親のもとに育つ
 - 高度成長時代を経験
- 欧米というテキストを理解し、武器にする習慣
 - 感覚や体で覚えるのが不得意
 - 必要性を「理詰め」で納得することが必要
 - 「組織」も理屈の一つ

世代毎に異なるITとの接し方

- 団塊ジュニア世代
 - 1973年生まれ中心
 - 団塊の世代を親に持ち、豊かな時代に育つ
- 量より質、感性・感覚・目新しさを重視
 - 理屈だけでは動かない
 - 自ら楽しさを開拓できる環境を提供すべき

人は変貌する

- 人の立場と置かれた環境は様々
 - 親の子
 - 家族の一員
 - 学生
 - 父親・母親
 - 従業員
 - 管理者

世間の流行は変貌する

- Windows95ブーム
- インターネットブーム
- モバイル、ブロードバンド
- 3文字の流行り言葉
- 汎用機を経験した人はIBMの言葉に信頼を寄せる？

最後は「人」を知ること

- 技術的な業務は専門家に任せる。
- 新技術が「人」と接したときに、何が起こるか？を想像する力を養え。
- 若い人は思わぬ利用法を編み出してくれる。これを現実として受け入れよ。

人は生き甲斐を求める

- 自動車、家電が人の生活を変えたように、ITが人の生き様を変えていく
 - 車の無い生活なんて、考えられない！
- 変わり方は、世代によって大きくちがう
 - IT普及以前に、生き甲斐を見つけた人
 - 物体 = 情報
 - これから生き甲斐を見つける人
 - 物流と情報流の分離した世界

システム管理者の眠れない夜

- 企業村での生活に生き甲斐を見出した人々の姿をつづっていきたい
 - 印鑑、紙
 - 直接の対話、議論
 - 組織構造と対応した情報流
- ITは人を幸せにするのか？
 - IT社会に生き甲斐を見出せる人はいい
 - 見出せない人はどうなる？

柳原秀基@NT-Committee2
<http://www.hidebohz.com/>
hidebohz@pop01.odn.ne.jp